

専門科目

E・電気情報工学科，電気情報工学コース

電気情報工学科・電気情報工学コースの学習・教育到達目標と教育課程

○ 教育目的

あらゆる産業や生活の基盤である電気・電子、情報系の技術を通じて、社会のニーズに応えるため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、電気電子システム並びに知能情報システムの基礎とその応用分野に関する知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

○ カリキュラム編成方針

カリキュラムの編成方針は以下の通りです。なお、科目の学年配置と科目間のつながりはカリキュラム表およびカリキュラムの流れ図に示しています。

- 1) 5年間一貫の実践的技術教育： 電気情報工学の教育全体にわたって、基礎から応用へのつながりを重視し、基礎理論をもとに実践的方法で展開する技術教育
- 2) 専門導入科目： 中学段階から高専教育への円滑な移行と専門分野への興味の喚起
- 3) 工学基礎科目： 専門科目の学習に必要な応用数学、応用物理、電気情報基礎、設計・演習、機械工学概論、物質工学概論等の工学基礎教育
- 4) 専門基礎科目： プログラミング、ディジタル回路、電子工学、電気回路、電磁気学、エネルギー変換工学のコア分野の科目と実験など関連科目において基礎力を固める教育
- 5) 専門科目： 上記の専門基礎科目を発展させた応用科目群（ソフトウェア設計法、情報ネットワーク論、制御工学、計測情報処理、通信工学、パワーエレクトロニクス、高電界工学、電力システム工学等）で構成した専門展開教育
- 6) 一般科目： 幅広い視野をもち、国際的なコミュニケーション基礎能力を有する人材、社会人としての倫理と技術者としての責任を自覚できる人材を養成

○ 教育方法

次の方法で教育を実施します。

- 1) 履修学年、履修レベルに応じた丁寧な学習指導（演習指導、補習指導、オフィスアワー等の活用）
- 2) 実験実習を各学年に配置し、座学で学ぶ理論を実地に検証する実践的教育。あわせて発表力、レポート作成能力を育成する。
- 3) 電気電子と情報の2コース制の実施。電力システム工学、電気応用を中心に学習する電気電子工学コース・電気情報システム履修コースとソフトウェア設計法、情報ネットワーク論を中心に学習する情報工学コース・知能情報システム履修コースに分かれてより深化した教育
- 4) 卒業研究を重視した教育。4年生から各研究室に分かれて、創成実験、外国文献等を講読する産業システム工学セミナー、工学セミナーAおよび自主的・計画的に課題に取り組む工学セミナーB・卒業研究では、研究遂行能力、得られた結果を論理的に整理し、わかりやすく公表するプレゼンテーション能力を育成

- 5) 校外実習や課題学修等で学生が自主的に行う学習の支援
- 6) 安全教育の徹底。安全教育は高電圧や大電流など危険性の高い電気を安全に扱う技術者の育成、情報ネットワークなど情報通信の信頼性を保全することのできる技術者を育成する上で必須とされ、高電界工学、電気法規・電気施設管理、通信工学などの授業や実験実習で教育

電気情報工学科・電気情報工学コース専門科目 担当教員名簿

教員所属：(E) 電気情報工学コース・(G) 総合科学教育科・(M) 機械システムデザインコース・
(C) マテリアル・バイオ工学コース・(Z) 環境都市・建築デザインコース

(所属) 職名	氏 名	担 当 科 目	連絡先	
			研究室 (ダイヤルイン)	メールアドレス @hachinohe-ct.ac.jp
(E) 教 授	工藤憲昌	電子回路設計Ⅰ・Ⅱ、デジタル信号処理、計算機アーキテクチャ、情報工学実験Ⅱ、電気情報演習Ⅳ	電気情報工学科棟4階 (27-7281)	kudohk-e
(E) 教 授	松橋信明	電子工学ⅠA・ⅠB・Ⅱ、電気電子材料、実験実習Ⅱ	電気情報工学科棟4階 (27-7282)	matsuhashi-e
(E) 教 授	釜谷博行	ソフトウェア設計法、制御工学Ⅰ・Ⅱ、工学演習、電気回路Ⅲ、知能情報システム実験Ⅰ、電気情報工学演習	電気情報工学科棟4階 (27-7283)	kamaya-e
(E) 教 授	中ノ勇人	電気情報基礎Ⅱ・Ⅴ、プログラミングⅡA、計測情報処理、通信工学、知能情報システム実験Ⅰ、電気情報工学演習	専攻科棟3階 (27-7288)	nakano-e
(E) 教 授	熊谷雅美	電気回路ⅠA・ⅠB・Ⅱ、パワーエレクトロニクス、電気応用、電気電子システム実験Ⅰ、電気情報工学演習	電気情報工学科棟4階 (27-7280)	kumagai-e
(E) 准教授	中村嘉孝	電磁気学Ⅲ、電子物性基礎、電気電子工学実験Ⅱ、電気情報演習Ⅲ	電気情報工学科棟5階 (27-7285)	naka-e
(E) 教 授	野中 崇	電磁気学Ⅰ・Ⅱ、実験実習Ⅲ、電気電子システム実験Ⅰ、電気法規・電気施設管理、電力システム工学Ⅱ、電気情報工学演習	電気情報工学科棟4階 (27-7277)	nonaka-e
(E) 准教授	佐藤 健	プログラミングⅠ、デジタル回路ⅠA・ⅠB・Ⅱ	図書館2階 (27-7317)	satok-e
(E) 講 師	細川 靖	プログラミングⅡA・ⅡB、実験実習Ⅲ、ロボットエレクトロニクス、コンピュータグラフィックス、工学演習、計算機アーキテクチャ、知能情報システム実験Ⅰ、電気情報工学演習	電気情報工学科棟5階 (27-7284)	yas-e
(E) 助 教	鎌田 貴晴	電気情報基礎Ⅰ、基礎製図、高電界工学、実験実習Ⅰ・Ⅱ、電気電子工学実験Ⅱ、情報工学実験Ⅱ	電気情報工学科棟1階 (27-7278)	kamada-e
(E) 助 教	佐々木修平	電気情報基礎Ⅲ・Ⅳ、エネルギー変換工学A・B、実験実習Ⅲ、電気電子システム実験Ⅰ、電気情報工学演習、電気情報演習Ⅱ	電気情報工学科棟5階 (27-7259)	sasakis-e
(G) 准教授	馬淵雅生	応用数学Ⅳ	講義棟4階 (27-7257)	mabuchi-g
(G) 准教授	馬場秋雄	応用数学Ⅰ	ゼミナール棟3階 (27-7247)	baba-g
(G) 准教授	丹羽隆裕	応用物理ⅠA・ⅠB	講義棟4階 (27-7244)	niwa-g
(G) 准教授	若狭尊裕	応用数学Ⅲ	講義棟4階 (27-7242)	wakasa-g
(G) 嘱託教授	鳴海哲雄	応用数学Ⅱ	図書館2階 ()	narumite-g
(M) 教 授	赤垣友治	メカニズム・設計概論	M棟4階 (27-7268)	akagaki-m
(M) 准教授	古谷一幸	設計・製図Ⅱ	M棟5階 (27-7263)	furuya-m
(M) 准教授	森 大祐	エネルギー変換システム、機械工学概論Ⅱ	M棟4階 (27-7266)	mori-m
(M) 助 教	郭 福会	実験実習Ⅱ	M棟4階 (27-7271)	kaku-m
(M) 嘱託教授	鎌田長幸	エネルギー変換システム	図書館2階 (27-7339)	kamata-m
(C) 教 授	松本克才	物質工学概論	C棟5階 (27-7294)	kmatsu-c
(Z) 教 授	南 將人	建設環境工学概論	Z棟3階 (27-7310)	minami-z

電気情報工学科非常勤講師

氏 名	担 当 科 目	氏 名	担 当 科 目
猪股俊光	システム情報工学	安達裕治	電力システム工学Ⅰ
佐藤裕幸	システム情報工学	岡村泰治	電力システム工学Ⅰ
佐藤茂雄	システム情報工学	高際雅之	知能デジタル回路・設計
長田 洋	電子デバイス	細越淳一	プログラミングⅡB
根城 安伯	応用物理Ⅱ・Ⅴ		

(電気情報工学科・電気情報工学コース)

- ・学修単位欄に○印の記載があるものは学修単位、○印のないものは履修単位。
- ・履修単位は、30時間の授業をもって1単位とする。
- ・学修単位は、自学自習を含めた45時間の学修をもって1単位とする。

1単位＝15時間の授業＋30時間の自学自習 2単位＝30時間の授業＋60時間の自学自習

電気情報工学コース(H28年度以降入学者)

本科(1～5学年)開講科目の流れ図					
	本科1年	本科2年	本科3年	本科4年	本科5年
CP1					卒業研究 (○)
CP2	電気情報基礎 (◎)		電子工学 (◎)	応用数学 (◎) 電子工学 (○) 制御工学 (○)	産業システム工学概論Ⅲ (◎) デジタル信号処理 (○) 計算機アーキテクチャ (○) 設計・製図 (◎)
	プログラミング (◎)	プログラミング (◎)	デジタル回路(◎) ロボットエレクトロニクス (◎) コンピュータグラフィックス (◎)	計測情報処理 (◎)	電気電子システム実験(◎) 知能情報システム実験(◎) 電気情報工学演習 (◎)
	実験実習 (◎)	実験実習 (○)	実験実習(◎)		卒業研究 (○)
CP3			メカニズム・設計概論 (◎) 応用物理 (◎) ロボットエレクトロニクス (○)	応用数学 (◎) 応用物理 (◎) 情報ネットワーク論 (◎) ソフトウェア設計法 (◎) デジタル回路 (◎) 制御工学 (◎) 工学演習 (◎)	産業システム工学概論Ⅰ (◎) 産業システム工学概論Ⅳ (◎) 通信工学 (◎) システム情報工学(◎) デジタル信号処理(◎) 計算機アーキテクチャ(◎) 知能デジタル回路・設計(◎)
	電気情報基礎 (◎)	電気情報基礎 (◎)	電磁気学 (◎) 電子工学 (○)	電磁気学 (◎) 電子工学 (◎)	電子デバイス (◎) 電子物性基礎 (◎) 電気電子材料 (◎)
			電気回路 (◎) エネルギー変換工学(◎)	電気回路 (◎) 電子回路設計 (◎) パワーエレクトロニクス (◎) エネルギー変換システム (◎) 電気応用 (◎)	電気回路 (◎) 電子回路設計 (◎) 高電界工学 (◎) 電力システム工学 (◎) 電気法規・電気施設管理(◎)
					卒業研究 (○) 電気情報工学セミナー (○)
CP4		実験実習 (◎)		創成実験 (◎) 産業システム工学セミナー (◎)	電気電子システム実験 (○) 知能情報システム実験 (○) 卒業研究 (◎)
CP5					電力システム工学 (◎) 卒業研究 (◎)
CP6				電気電子システム実験(○) 知能情報システム実験(○) 電気情報工学演習 (○) 産業システム工学セミナー (○)	卒業研究 (○) 電気情報工学セミナー (◎)

CP1	技術者として必要な教養と幅広い視野を身につけるため、国語、数学、英語、理科、社会、体育、芸術などの科目を、低学年を中心に開講する。
CP2	専門科目の基礎となる数学、自然科学の基礎知識を身につけるため、応用数学、応用物理、情報処理に関する科目を開講する。
CP3	得意とする専門分野の知識と技術を身に付けるため、専門基礎および応用科目の講義と、実験、実習などの体験的授業を有機的に組み合わせたカリキュラムを編成する。さらに、それらを課題解決に応用する能力を育成するため、高学年において創成科目や卒業研究を開講する。
CP4	自ら課題を発見し、自立的に探究する姿勢を身につけるため、1学年から5学年の秋学期に自主探究を実施する。またチーム内での役割を自覚し、協調性を持って仕事に取り組む姿勢を身につけるため、各種の実験・実習や創成科目、卒業研究などにおいて、協働で取り組む内容を設ける。
CP5	地域の課題に関心を深めるため、地域志向科目を設ける。また地域の課題をテーマとする自主探究や卒業研究などを奨励する。
CP6	討議発表力、異文化理解力を身につけるために日本語コミュニケーション、英語コミュニケーションなどの科目を開講するとともに、短期海外研修などの機会を設ける。またそれらを活用できる能力を身につけるため、全学年で自主探究のポスター発表を実施するほか卒業研究の英語発表を奨励する。

電気情報工学コース(H27年度入学者)

本科(1～5学年)開講科目の流れ図					
	本科1年	本科2年	本科3年	本科4年	本科5年
CP1					卒業研究 (○)
CP2	電気情報基礎 (◎)		電子工学 (◎)	応用数学 (◎) 電子工学 (○) 制御工学 (○)	産業システム工学概論Ⅲ (◎) ディジタル信号処理 (○) 計算機アーキテクチャ (○)
	プログラミング (◎)	プログラミング (◎)	ディジタル回路 (◎) ロボットエレクトロニクス (◎) コンピュータグラフィックス (◎) 設計・製図 (◎)	計測情報処理 (◎)	
	実験実習 (◎)	実験実習 (○)	実験実習 (◎)	電気電子システム実験 (◎) 知能情報システム実験 (◎) 電気情報工学演習 (◎)	電気電子システム実験 (◎) 知能情報システム実験 (◎)
					卒業研究 (○)
CP3			メカニズム・設計概論 (◎) 応用物理 (◎) ロボットエレクトロニクス (○)	応用数学 (◎) 応用物理 (◎) 情報ネットワーク論 (◎) ソフトウェア設計法 (◎) ディジタル回路 (◎) 制御工学 (◎) 工学演習 (◎)	産業システム工学概論Ⅰ (◎) 産業システム工学概論Ⅳ (◎) 通信工学 (◎) システム情報工学 (◎) ディジタル信号処理 (◎) 計算機アーキテクチャ (◎) 知能ディジタル回路・設計 (◎)
	電気情報基礎 (◎)	電気情報基礎 (◎)	電磁気学 (◎) 電子工学 (○)	電磁気学 (◎) 電子工学 (◎)	電子デバイス (◎) 電子物性基礎 (◎) 電気電子材料 (◎)
			電気回路 (◎) エネルギー変換工学 (◎)	電気回路 (◎) 電子回路設計 (◎)	電気回路 (◎) 電子回路設計 (◎)
				パワーエレクトロニクス (◎) エネルギー変換システム (◎) 電気応用 (◎)	高電界工学 (◎) 電力システム工学 (◎) 電気法規・電気施設管理 (◎)
					卒業研究 (○) 電気情報工学セミナー (○)
CP4		実験実習 (◎)		創成実験 (◎) 産業システム工学セミナー (◎)	電気電子システム実験 (○) 知能情報システム実験 (○) 卒業研究 (◎)
CP5					電力システム工学 (◎) 卒業研究 (◎)
CP6				電気電子システム実験 (○) 知能情報システム実験 (○) 電気情報工学演習 (○) 産業システム工学セミナー (○)	卒業研究 (○) 電気情報工学セミナー (◎)

CP1	技術者として必要な教養と幅広い視野を身につけるため、国語、数学、英語、理科、社会、体育、芸術などの科目を、低学年を中心に開講する。
CP2	専門科目の基礎となる数学、自然科学の基礎知識を身につけるため、応用数学、応用物理、情報処理に関する科目を開講する。
CP3	得意とする専門分野の知識と技術を身に付けるため、専門基礎および応用科目の講義と、実験、実習などの体験的授業を有機的に組み合わせたカリキュラムを編成する。さらに、それらを課題解決に応用する能力を育成するため、高学年において創成科目や卒業研究を開講する。
CP4	自ら課題を発見し、自立的に探究する姿勢を身につけるため、1学年から5学年の秋学期に自主探究を実施する。またチーム内での役割を自覚し、協調性を持って仕事に取り組む姿勢を身につけるため、各種の実験・実習や創成科目、卒業研究などにおいて、協働で取り組む内容を設ける。
CP5	地域の課題に関心を深めるため、地域志向科目を設ける。また地域の課題をテーマとする自主探究や卒業研究などを奨励する。
CP6	討議発表力、異文化理解力を身につけるために日本語コミュニケーション、英語コミュニケーションなどの科目を開講するとともに、短期海外研修などの機会を設ける。またそれらを活用できる能力を身につけるため、全学年で自主探究のポスター発表を実施するほか卒業研究の英語発表を奨励する。

電気情報工学科(H25・H26年度入学者)

本科(1～5学年)開講科目の流れ図					
	本科1年	本科2年	本科3年	本科4年	本科5年
CP1					卒業研究 (○)
CP2	電気情報基礎 (◎)		電子工学 (◎)	応用数学 (◎) 電子工学 (○) 制御工学 (○)	物質工学概論 (◎)
		プログラミング (◎)	プログラミング (◎) デジタル回路 (◎) ロボットエレクトロニクス (◎) コンピュータグラフィックス (◎)	計測情報処理 (◎)	デジタル信号処理 (○) 計算機アーキテクチャ (○) 設計・製図 (◎)
	実験実習 (◎)	実験実習 (○)	実験実習 (◎)	電気電子工学実験 (◎) 情報工学実験 (◎)	電気電子工学実験 (◎) 情報工学実験 (◎)
					卒業研究 (○) 工学セミナー (○)
CP3	設計・製図 (◎)		機械工学概論 (◎) 応用物理 (◎) ロボットエレクトロニクス (○)	応用数学 (◎) 応用物理 (◎) 情報ネットワーク論 (◎) ソフトウェア設計法 (◎) デジタル回路 (◎)	機械工学概論 (◎) 建設環境工学概論 (◎)
				制御工学 (◎) 工学演習 (◎)	通信工学 (◎) システム情報工学 (◎) デジタル信号処理 (◎) 計算機アーキテクチャ (◎) 知能デジタル回路・設計 (◎)
	電気情報基礎 (◎)	電気情報基礎 (◎)	電磁気学 (◎) 電子工学 (○)	電磁気学 (◎) 電子工学 (◎)	電子デバイス (◎) 電子物性基礎 (◎) 電気電子材料 (◎)
			電気回路 (◎) エネルギー変換工学 (◎)	電気回路 (◎) 電子回路設計 (◎) パワーエレクトロニクス (◎) エネルギー変換システム (◎) 電気応用 (◎)	電気回路 (◎) 高電界工学 (◎) 電力システム工学 (◎) 電気法規・電気施設管理 (◎)
CP4		実験実習 (◎)		創成実験 (◎)	電気電子工学実験 (○) 情報工学実験 (○)
					卒業研究 (◎) 工学セミナー (◎)
CP5					電力システム工学 (◎) 卒業研究 (◎) 工学セミナー (○)
CP6				電気電子工学実験 (○) 情報工学実験 (○)	卒業研究 (○) 工学セミナー (◎)

CP1	技術者として必要な教養と幅広い視野を身につけるため、国語、数学、英語、理科、社会、体育、芸術などの科目を、低学年を中心に開講する。
CP2	専門科目の基礎となる数学、自然科学の基礎知識を身につけるため、応用数学、応用物理、情報処理に関する科目を開講する。
CP3	得意とする専門分野の知識と技術を身に付けるため、専門基礎および応用科目の講義と、実験、実習などの体験的授業を有機的に組み合わせたカリキュラムを編成する。さらに、それらを課題解決に応用する能力を育成するため、高学年において創成科目や卒業研究を開講する。
CP4	自ら課題を発見し、自立的に探究する姿勢を身につけるため、1学年から5学年の秋学期に自主探究を実施する。またチーム内での役割を自覚し、協調性を持って仕事に取り組む姿勢を身につけるため、各種の実験・実習や創成科目、卒業研究などにおいて、協働で取り組む内容を設ける。
CP5	地域の課題に関心を深めるため、地域志向科目を設ける。また地域の課題をテーマとする自主探究や卒業研究などを奨励する。
CP6	討議発表力、異文化理解力を身につけるために日本語コミュニケーション、英語コミュニケーションなどの科目を開講するとともに、短期海外研修などの機会を設ける。またそれらを活用できる能力を身につけるため、全学年で自主探究のポスター発表を実施するほか卒業研究の英語発表を奨励する。